

第17回 ASEAN-OSHNET 理事会概要

1. 開催日時

第17回 ASEAN-OSHNET 理事会 平成28年4月26日(火)－4月27日(水)
(第1回 ASEAN-OSHNET Award 平成28年4月27日(水))

2. 開催場所

ベトナム ダナン

3. 開催経緯

ASEAN 諸国連合労働安全衛生ネットワーク (ASEAN-OSHNET) は、2006年5月に開催された ASEAN+3労働大臣会合での決議により設置することとなった労働安全衛生に関する地域ネットワークであり、ASEAN 地域センター構想に基づいている。設置の背景としては、当時、ASEAN+3の国々において、労働災害の防止と疾病の予防に関心が高まっていたことに加え、国際労働会議において労働安全衛生を推進させる枠組み条約及び勧告 (187号条約及び197号勧告) が採択されたことがあり、このような枠組みについて議論を行い、協力を進める場が必要とされていた。同会合では、労働安全衛生の政策と労働安全衛生マネジメントシステムについて政府間の会合 (政策対話) を持つことも合意された。

2007年4月に ASEAN-OSHNET の第1回会合が開催され、労働安全衛生の普及等に取り組むことが決議された。ASEAN-OSHNET の活動として、ASEAN 諸国の労働条件と労働環境の改善を目的に、情報の収集普及、研究・研修の実施、労働安全衛生に関する基準・ガイドラインの策定等への取組がなされており、毎回の理事会において進捗状況が報告されている。

ASEAN-OSHNET は、その運営について審議するため理事会が設置されており、日本は ASEAN+3のメンバー国として、理事会に出席している。

(注) ASEAN+3とは、ASEAN10か国に、日本、中国及び韓国を加えたもの。

4. 出席者

Ha Tat Thang ベトナム労働・傷病兵・社会省 (MOLISA) 労働安全局長
ASEAN 各国の安全衛生担当部長、職員
ASEAN 事務局労働担当者
ILO ROAP 専門家
国際労働監督協会 (IALI) 前会長
国際社会保障協会 (ISSA) 鉱業部門担当者
中国安全生産監督管理総局担当者
日本厚生労働省労働基準局安全衛生部中央産業安全専門官

5. 概要

(1) 要点

①会議は、ASEAN 加盟国のみを対象とした非公開の部、国際機関 (ILO、

IALI、ISSA)及びアジア協力国(日本、中国、韓国)を加えた公開の部の2部構成で行われた。

- ②理事会においては、各国安全衛生担当局長らが出席する中、日本のASEAN諸国への協力状況及び今後の方向性について説明し、CLMV諸国に対して、JICAベースの協力等について継続的な要請が重要である旨指摘した。議長から、日本の協力に謝意が示された。
- ③ASEAN-OSHNETの次期5カ年計画(2016-2020)の策定に向け、非公開ベースで議論がなされた。
- ④ASEAN域内の企業を対象とした表彰制度が設けられ、第1回ASEAN OSHNET Awardが行われた。これらの活動により、国家間の情報共有に加え、産業界も包含する構図となった。
- ⑤日本への協力の期待については、ミャンマー、ラオス、タイが強い関心を示していた。過去にJICAプロジェクトを実施しているフィリピンやインドネシアにおいても、新たな形での連携協力を模索していきたい意向が示された。
- ⑥マレーシアから、本年開催を予定している第三国研修の協力について紹介があり、改めてカンボジアからも参加の意向が示された。
- ⑦毎年、幹事国が交代して開催されており、今回はブルネイまたはカンボジアが幹事国になる予定。

(2) 第17回 ASEAN-OSHNET 理事会

ア 非公開議事

- 議題1 (議長及び副議長の選出)
- 議題2 (第17回理事会の議題の承認)
- 議題3 (事務連絡)
- 議題4 (第16回理事会・第11回 SLOM(労働関係高級実務者会合)の決議)
- 議題5 (ASEAN-OSHNET アクションプラン 2016-2020)
- 議題11 (その他事務連絡)
- 議題12 (第17回理事会報告の承認)
- 議題13 (第18回理事会及び第4回大会の確認)

イ 公開議事

- 議題6 (外部機関からの協力状況)

(ア) ILO

Mr. Kim から、ILO と ASEAN-OSHNET との協力分野について紹介された。近年の安全衛生分野の進展としては、2105年9月国連持続可能な開発サミットで掲げられた「持続可能な開発目標 (SDGs)」の中で、経済成長、生産的な完全雇用及びディーセントワークの推進などについて言及された。2015-2016期における協力の取組例として、労働監督を通じた安全衛生システムの強化、安全衛生政策への支援、安全衛生分野の情報共有等が紹介された。また、アメリカ労働省からの財政的支援の下、若

年労働者向けの安全衛生プロジェクト（2014-2018）も紹介された。継続中の協力に加え、労働災害や労働力などの統計データの集積・解析など、新たな分野での協力の可能性についても触れられた。

また、2016年12月にインドネシアで開催される第16回アジア太平洋地域労働会合や、2017年9月にシンガポールで開催される第21回世界労働安全衛生会議についての協力も言及された。

(イ) IALI

Michelle 前会長から、IALI と ASEAN-OSHNET との協力分野について紹介された。2010-2015期に開催された ASEAN 労働監督会議における参加など。

将来的な協力として、引き続きの ASEAN 労働監督会議への参画や、労働基準監督官の研修やワークショップに対する専門家派遣などの支援について触れられた。

また、専門性と能力、総合性を併せ持つ有能な監督機関が、予防的な安全衛生文化の構築には不可欠であるとの見解が示された。

(ウ) 中国安全生産監督管理総局

Mr. Wu より、中国における労働災害の発生状況について、紹介された。国内における労働災害の推移は改善傾向を示している一方で、依然深刻な労働災害も報告されている現状が紹介された。中国では、安全衛生に関する包括的な法令が存在すると同時に、鉱業、化学物質、輸送、建築、消防の分野では、特別規則があるとのことであった。

また、中国の第13次5カ年計画による発展戦略の中で定められた安全衛生分野と経済・社会発展との協調について紹介された。

(エ) 日本厚生労働省

日本担当行政官より、日本（政府、JICA、JNOSH、JISHA）と ASEAN のこれまでの協力の歴史と、今後の協力の方向性について説明をした。JICA プロジェクトを通じた技術協力には、特に、ミャンマー、ラオス、タイなどが強い関心を示した。ILO のマルチバイプログラムや、2007-2012をかけて実施された OSHMS に係る ASEAN+3の政策対話についても紹介した。議長からは、これまでの日本の ASEAN 諸国に対する協力を謝意が示されるとともに、今後も引き続きの連携を希望する旨発言があった。

(オ) ISSA Mining

Mr. Matthias より、ISSA の活動が報告された。ISSA は全13部局により構成され、今回は、鉱業担当部局（ISSA Mining）よりの派遣であった。ISSA Mining は、国際専門家による監察や、会議やセミナーの開催を通じて、鉱山労働者の安全性の確保や社会保障の改善等を推進している。鉱山の危険性に鑑み、ISSA Mining は、『VISION ZERO』という取組を展開しており、7つの Golden Rule なる項目から成り立つが、労働災害防止に資する予防的アプローチである。2017年にシンガポールで開催される第

21回世界労働安全衛生会議に協賛するとともに、同会議において ISSA Mining Award の創設を検討しているとのことであった。

議題 7 (ASEAN 各国の担当課題の進捗状況報告)

(ア) 情報 (タイ)

ASEAN-OSHNET のウェブサイトやスコアカードのデータベースなどの情報システムの更新について報告がなされた。ASEAN 諸国の安全衛生分野に関するニュースやイベント、カレンダーの情報を掲載している。2016年3月に実施された現状把握のためのスコアカードの更新については、ASEAN 各国から回答を得たものの、技術的な問題の解決に時間を要している旨報告された。2016-2020 ASEAN-OSHNET アクションプランに基づき、2017年若しくは2018年の早い段階で、スコアカードに基づく、ワークショップを開催することとのことであった。また、ASEAN-OSHNET Award に関する情報も掲載したとの報告があった。

(イ) 教育訓練 (フィリピン)

教育訓練のニーズ、安全衛生分野における講師に対する研修等についてのアンケート調査の結果について報告された。調査結果については、今後の研修方針に活用するとともに、外部協力機関との連携も模索していきたいとのことであった。

(ウ) 調査研究 (インドネシア)

ASEAN-OSHNET は、第10回理事会以来、資金や人材不足などを理由に協力的な調査研究を実施してこなかった点について指摘された。各国の安全衛生分野に対する研究機関や近年の安全衛生分野研究のリスト、ASEAN-OSHNET における共同研究等を整理するための調査について報告された。これまでマレーシア、フィリピン、シンガポールからフィードバックがあり、共同研究の特定テーマとして、安全衛生の経済的側面、主要な労働災害の問題、中小企業における安全衛生、等が盛り込まれた。

(エ) 規格標準 (マレーシア)

2009年の第10回理事会において審議された、中小企業向けの OSHMS に関するガイダンスノートの進捗状況について報告された。ガイダンスノートは2010年にまとめられ、2015年の第15回理事会において、ガイダンスノートの理解と実用性を促進するための研修が提案されている。フィリピンはマレーシアの提案に基づくガイダンスノートに関する研修の開催について理解を示した。

(オ) 監督 (シンガポール)

2015年8月に実施された、タイとベトナムからシンガポールへの研修訪問について報告された。また、シンガポールから、第31回国際安全衛生会議における安全衛生監督などについても報告があった。ASEAN-OSHNET アクションプラン2016-2020に基づき、安全衛生監督における共通チェックリスト作成の舵取り役としての意識が示された。

(カ) 国家的枠組み（ベトナム）

ASEAN各国の安全衛生分野の取組状況について報告がなされた。ベトナムより自国の労働安全衛生法について紹介されるとともに、今後5年間は、インフォーマルセクターにおける安全衛生に着目していく旨報告された。

(キ) 中小企業とインフォーマル経済（カンボジア）

ミャンマー以外からの情報更新がないため、情報不足との報告がなされた。カンボジアでは、ILOから中小企業やインフォーマルセクターにおける労働者の職業訓練に資するための援助を受けているとのことであった。中小企業における安全衛生ガイドラインやOHMSのノウハウについては、AETUCや日本の協力について言及された。カンボジアより、ASEAN全体として、中小企業やインフォーマルセクターについてのアプローチすることが肝要であるとの報告であった。

議題8（ASEAN-OSHNETアクションプラン2011-2015の報告）

タイより、各国の安全衛生政策、労働災害状況等の現状を確認したスコアカードの結果が示された。

第1回ASEAN OSHNET Awardと、第3回ASEAN-OSHNET大会について確認がなされた。また、“Turning Visions to Actions”をテーマに掲げたASEAN-OSHNET 15周年記念広報が、2016年年末に広報されるとのことであった。また、アクションプラン2016-2020に基づくプロジェクトや活動に関連した協力の可能性について議論がなされた。

議題9（その他各国状況報告）

2015年11月11-12にインドネシアで開催される『第5回ASEAN労働基準監督官会議』について周知された。

議題10（安全衛生関連イベントの情報共有）

ASEAN-OSHNET事務局より、ASEAN-OSHNET websiteに掲載するため、各イベント情報の共有が呼びかけられた。

(3) 第1回ASEAN-OSHNET Award

第17回ASEAN OSHNET理事会に引き続き、第1回ASEAN-OSHNET Awardが開催された。優良賞、好事例賞の2部門からなり、各受賞企業からのスピーチやフォトセッション、民族舞踊等を経て、表彰式は盛況に終わった。産業界の参画、安全衛生に関する機運の醸成という観点から、一定の効果があったという印象であった。